

修正箇所(案)一覧

No	区分	意見要旨	対応(案)	対応内容
6	みどりの状況と課題	15ページにカーボンニュートラルの記載があるが、屋上緑化だけでなく、市内全域で緑化を進め、脱炭素との関連を強く打ち出してほしい。2030年まで残り4年しか残っていない。気候危機によって将来に強い不安を抱いて暮らしている。これからの未来を生きる、より温暖化の影響を強く受ける将来世代のために、今社会を動かす大人が危機感を共有し、行動してほしい。	■修正	【77ページを修正】 ・「都市緑化による二酸化炭素吸収量」を総括目標と定め、みどりの保全・創出に取り組んでまいります。また、脱炭素との関係をより分かりやすくするため、注釈に算定方法の説明を追記しています。あわせて、数目標数値の誤記を修正しました。
10	みどりの状況と課題	28ページにおける樹林地の定義が、法的に位置づけられた場所のみを対象としているが、この計画案における定義としてそれでいいのか疑問である。それ以外の樹林地は「など」という表現で含まれるのか、法的指定を受けた場所は木々がなくても樹林地と見なすという意味なのか。記述が不明確であり、誤解を生む。	■修正	【28ページを修正】 ・注釈の削除
14	みどりの状況と課題	30ページに記載されている緑被面積120haの増加について、その内訳は市街化区域6ha、市街化調整区域115haであり、増加分は市街化調整区域であることを明記した方が良いのではないのか。	■修正	【30ページを修正】 ・文言の追記
25	みどりの状況と課題	みどりの基本計画を読み、福岡市の素晴らしい環境を誇りに思った。しかし、公開空地を所有するマンションの居住し、理事に就任している中で、緑化率30%の維持、隣接する公園からの侵入による植栽の破損、植栽管理・改善費の高騰などの問題に頭を悩ませており、理事就任当初は、公開空地の意味さえ分からない状況だった経験を踏まえ、市民がみどりの基本計画を理解しやすくなるよう、「①公開空地という言葉の定義」及び「②福岡市における緑地全体に対する公開空地の割合」について明示してほしい。	■修正	【36ページを修正】 ・公開空地について脚注で①定義と②面積を追加
98	基本方向3	方針1「都心部などに象徴的なみどりをつくる」の②「みどりあふれる憩いや賑わいの拠点創出」という題目に対し、植物園について「花による共創のまちづくりを進めるための人材育成や共創の場づくりなど、「一人一花運動」の拠点としての機能強化を図ります」と記載されている。しかし、この記載内容と添付写真は、題目の趣旨とそぐわないと感じる。人材育成や共創の場づくりという植物園の機能については、122ページ「方針2 みどりのまちづくり活動への参加を促進する」に同様の記載がある。方針1では、市民が象徴的なみどりの姿を具体的に想像できる文言が望ましいのではないのか。例えば、大濠公園と舞鶴公園の一体的活用による賑わいの増加や、大規模公園の新規整備、老朽化施設の改修は、利用者の期待を膨らませる表現である。また、海の中道海浜公園における「緑豊かで広大な空間を最大限に活用した多様なレクリエーションの提供」も、場の情景を想起させる文言である。例えば、令和6年9月「植物園「一人一花運動」拠点機能強化に向けた基本的な考え方」25ページ「今後の取り組みの方向性」に記載されている「一年を通して行きたくなる花のスポットを創出していきます」など、場面を具体的に想像できる文言と再整備図案を示す方が分かりやすいと感じる。	■修正	【97ページを修正】 ・特に植物園においては、 <u>一年を通して花や緑が楽しめる憩いの場づくりに取り組むとともに</u> 、花による共創のまちづくりを進めるための人材育成や共創の場づくりなど、一人一花運動の拠点としての機能強化を図ります。 ・写真の変更

内容の修正

	99	基本方向3	97ページに掲載されている写真(植物園の花壇)は、コンテスト後にステップアップガーデンとして常時展示される場所である。各エリア内でデザインを重視して作られており、プランターや鉢の植栽が多く、地植えに比べて毎日の管理が欠かせないものである。しかし、製作者である市民は毎日通うことができず、完成の日をピークに管理頻度の低下で植物の状態が悪化することが多い。さらに、石原氏の講座直前になると花苗や鉢が慌ただしく追加され、そこをピークに再び状態が落ちるという現状である。かつてこの場所では、地植えした花苗の花柄を毎日摘み、次の花を咲かせる姿が見られた。来園者と会話を交わしながら手入れをする姿もあった。そのような人は作業員と称されるが、イギリスのガーデンツアーでは、「緑を美しくする人」と表現していた。「緑を美しくする人」が委託から市民参加へと変わることには異論はないが、植物園として花修景を通年で美しく維持するための手立て、市の舵取りがもっと必要ではないかと思う。市民参加で一生懸命に取り組んでいるから仕方がないという姿勢は、来園者に対する責任放棄につながると感じる。	■修正	【97ページを修正】 ・特に植物園においては、 <u>一年を通して花や緑が楽しめる憩いの場づくりに取り組むとともに</u> 、花による共創のまちづくりを進めるための人材育成や共創の場づくりなど、一人一花運動の拠点としての機能強化を図ります。 ・写真の変更
	100	基本方向3	97ページの植物園における「一人一花運動」の拠点強化について、この大義のもとで植物園の品格が失われないか心配だ。植物の銘板は派手で大き過ぎて、植物よりも目立っている。バラ園跡地は砂の運動場のままイベント会場となり、フラワーションのペランダガーデンの設備も放置されている。さらに、コンテストガーデンが並ぶ通りはテイスต์が多様過ぎて落ち着きがない。リニューアル中であるため、完成後に改善されることを期待するが、植物園は多くの植物と出会い、発見や体験ができる場所であることに意義があると考え。植物がいつも静かにある場所であり、イベントで過度に騒がしい雰囲気になることには疑問を感じる。	■修正	【97ページを修正】 ・特に植物園においては、 <u>一年を通して花や緑が楽しめる憩いの場づくりに取り組むとともに</u> 、花による共創のまちづくりを進めるための人材育成や共創の場づくりなど、一人一花運動の拠点としての機能強化を図ります。
	184	区別計画	中央区と博多区は緑被率が低い、第5章の区別計画のうち両区の「みどりのまちづくりの方向性」において、緑被率の改善を明確にイメージできるものが提示されていない。再検討を求めたい。	■修正	【136・137ページを修正】 ・多様な主体によるみどりの保全や管理、活用を <u>より</u> 促進します。
	17	みどりの状況と課題	31ページの図面について、2007年の同じ図面があれば、15年間の失われた緑と創出された緑の図面を作ることができ、動向が把握できる。	■修正	【31ページを修正】 ・図2-21 福岡市の緑被分布
	18	みどりの状況と課題	32ページの町丁別緑被率の図面について、凡例の色を変更し、意味のある分かりやすい図面にしてはどうか。国が目指している市街地の緑被率は30%であるため、目標値30%以上は緑系の色に、30%未満は緑系以外の色に設定することを提案する。具体例として、低い方から赤茶色・茶色・黄土色・黄色系以上30%未満の町丁に、30%以上は黄緑系・緑系・深緑系の様に並べる。このように色分けを行えば、視覚的に分かりやすく、意味のある図面となる。	■修正	【32・33ページを修正】 ・図面の色彩
表の見やすさ	19	みどりの状況と課題	33ページでは、区全体の緑被率を数字で示すだけでなく、区を市街化区域と市街化調整区域に区分して、それぞれの区域ごとの緑被率を示した方が意味があるのではないかな。	■修正	【33ページを修正】 ・区ごとの市街化区域と市街化調整区域の緑被率の表
	27	みどりの状況と課題	39ページの図面は労作であるが、凡例および図面の表示が細かすぎて判読が困難であるという問題がある。この図面は自然植生を示しているが、市街地部における街路樹や保護樹についても記述があって然るべきである。	■修正	【113ページを修正】 ・保存樹の概要
	22	みどりの状況と課題	記述に誤りがある。森林の主な増減要因として「草地の樹林化」が挙げられているが、草地は緑被率に算定されるはずであるため「裸地等の樹林化」が適切ではないかな。	■修正	【35ページを修正】 ・表2-3 <u>裸地等</u> の樹林化
誤記					